

日本海洋学会 2016 年度第 6 回幹事会議事録

日時：2017 年 1 月 4 日（水）13:30～17:15

会場：パレスサイドビル マイナビルーム 2F-Y

出席：日比谷会長、神田副会長、石坂、市川、伊藤、小畑、鈴木、津田、東塚、原田、山中、毎日学術フォーラム（小野、平坂）

議題：

1. 議事録承認（伊藤幹事）

2016 年度第 5 回幹事会の議事録案を確認し、承認した。

2. 審議事項

(1) 入退会について（小畑幹事）

2016 年 10～11 月の入退会を承認した。入会 6 名、退会 1 名、逝去 1 名、2016 年度 11 月末現在の会員数 1683 名。

(2) シンポジウムの後援・協賛等について（小畑幹事）

5 件の後援・協賛について承認した。

水産海洋学会の要請に基づき、道田会員を 2017 年度水産海洋シンポジウムの日本海洋学会コンビーナーとして認めた。

(3) 公募・推薦・周知の依頼について（小畑幹事）

公募・推薦 1 件、シンポジウム・講演などの案内 2 件について、ML 配信その他の対応を行ったことが報告され、承認した。島津賞の推薦を行ったが受賞対象に入らなかったことについて報告があった。

(4) 2017 年 3 月シンポジウムの開催について（鈴木幹事）

2017 年 3 月シンポジウム開催について、報告があった。

海洋生物学研究会主催シンポジウム、日本プランクトン学会主催シンポジウム、水産海洋学会主催シンポジウム、沿岸海洋研究会主催シンポジウムが開催される。

それ以外に沿岸海洋研究会委員会の会議室が必要であったが、この費用は日本海洋学会で支出することになった。

日本プランクトン学会主催シンポジウムおよび水産海洋学会主催シンポジウムについては、両学会がそれぞれ会場費を支払うことになっている。海洋生物学研究会主催シンポジウムおよび沿岸海洋研究会主催シンポジウムについては、請求先が海洋生物学

研究会になっている。この件については、沿岸海洋研究会分は沿岸海洋研究会で支払うようにした方がよいとの見解が出せれ、海洋生物学研究会に事業費使途の整理をお願いすることとなった。

(5) 2017年5月 JpGU 期間中に開催予定の各種委員会等の会場について（鈴木幹事）

2017年5月 JpGU 期間中に開催予定の各種委員会等の会場希望について、報告があった。

総会、評議委員会に、三賞選考委員会、論文賞選考委員会、環境科学賞選考委員会、海の研究編集委員会、JO 編集委員会、沿岸海洋研究会委員会、教育問題研究会、海洋環境問題研究会の開催希望があり、各種委員会等の人数、お弁当手配の有無、開催希望日時等が報告された。

5月21日(日)に評議員会(18:30~20:30)、22日(月)に総会(18:30~20:30)を開催する方針となった。

三賞選考委員会、論文賞選考委員会、環境科学賞選考委員会は、5月21日(日)12:30~13:30に開催、海の研究編集委員会、JO 編集委員会は、5月20日(土)12:30~13:30に開催、沿岸海洋研究会委員会は5月20日(土)18:30~19:30に開催、教育問題研究会、海洋環境問題研究会は、5月22日(月)12:30~13:30に開催する方針になった。

評議委員会、三賞選考委員会、論文賞選考委員会、環境科学賞選考委員会、海の研究編集委員会、JO 編集委員会は、お弁当の手配をすることとなった（お弁当は会場側が設定するケータリングに発注しなければならない）。

なお、幹事会は JpGU 期間直前に行う方針となった。

(6) 2017年度「日本海洋学会青い海助成事業」募集要領について（鈴木幹事）

2017年度「日本海洋学会青い海助成事業」募集要領（案）が提案され、一部誤字が修正され、承認された。

3. 報告事項

(1) 会長（日比谷会長）

サンフランシスコで開催された AGU-Fall meeting にて、2017年5月の JpGU-AGU 合同大会後の方針について、川幡会長、津田元会長、大谷氏、末広氏、田嶋氏、三宅氏、木村氏と AGU 次期会長らが会談したことが報告された。2018年以降も AGU-JpGU ジョイントセッションを継続することが JpGU から提案されたこと、2019年は AGU の 100 周年になるので共同イベントを行いたいという提案が AGU 側からあったこと、オリンピックイヤーに AGU-JpGU 合同大会を行いたい（次回は 2020 年）という意見が出されたこと、ただし 4 年に一度だと役員がすべて入れ替わるので 3 年ごとに行った方がいいのではないかという意見が出されたこと、が報告された。AGU-

JpGU 合同大会の開催は、財政的な議論が必要で、次回の JpGU 役員会で議論される予定であることが紹介された。

JpGU 西田賞およびフェローの推薦を行ったことが報告された。西田賞に 2 名の会員を、フェローに 2 名の名誉会員を推薦し、推薦書はすべて日比谷会長が執筆したことが報告された。

JO で剽窃が起きたこと、また、イランで *Journal of Oceanography* という雑誌が出版されており、問題視していることが報告された。

(2) 庶務 (小畑幹事)

各賞の可否投票に添付した推薦書が報告された。

幹事の引き継ぎ書の改訂版を 3 月の新旧合同幹事会までに用意するよう各担当幹事に依頼があった。

(3) 編集

① JO (石坂編集長)

2 月号として *Earthquake* 特集第 2 号が出版される予定であり、順調に発行が進んでいることが報告された。

“Radionuclides in coastal sediments after the accident of Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant” 特集号の投稿が遅れており、締め切りが 2 度延長されたことが報告された。

2016 年度の投稿数は前年度の 3 分の 2 に、受理数が 3 分の 1 に減少していることが報告された。

10 月に投稿された論文が、イランの雑誌に 2015 年(11 月)に出版されている英文論文とほぼ同一の内容であり、悪質な剽窃の可能性があり、編集委員会と Springer で検討していることが報告された。

また、イランで *Journal of Oceanography* というアラビア語の雑誌が出版されていることが発覚し、編集委員会と Springer で対応を検討していることが報告された。

② 海の研究 (市川編集長)

第 26 巻 1 号がウェブ公開されたことが報告された。

特集号が 3 件進められていることが報告された。

通常号の投稿状況についても報告された。

③ ニュースレター (津田編集長)

Vol.6 No.3 が発刊されたことが報告された。

(4) 選挙（山中幹事）

2017年度、2018年度役員選挙投票結果が、繰上当選も含め、報告された。

幹事・賞選考半数改選・可否投票については、1月11日に投票締切、1月18日選挙結果確定、1月下旬にニュースレターに開票結果掲載の予定であることが報告された。

(5) 海洋環境委員会（鈴木幹事）

研究会の会長の交代が決定したら、春季評議員会に提案することが報告された。

(6) 教育問題研究会（伊藤幹事）

2017年度東京都教職員研修、NPO法人理科カリキュラムを考える会2016年度冬季シンポジウム、「一家に一枚」ポスター企画WG、「海はめぐる」第2版、について報告があった。

(7) JpGU（原田幹事）

2017年1月8日からJpGU-AGU合同大会の要旨申し込みが始まるため、日本海洋学会関連セッションを宣伝することが報告された。

(8) 日本科学振興財団（日比谷会長）

研究船・練習船の委員会を再び始める予定であることが報告された。

(9) 震災対応（神田副会長）

「福島復興廃炉に貢献する学協会連絡会」が1月26日に公開ワークショップを開催する予定だが、日本海洋学会としては欠席する予定であることが報告された。

秋季大会が仙台市で開催されるため、震災関連のシンポジウム等を開催した方がいいのではないかという意見が出された。

(10) 若手支援（神田副会長）

後期募集終了していることが報告された。

(11) 海洋観測ガイドライン編集委員会（河野幹事）

英語版および日本語版第2弾が出版されたことが報告された。

(12) 海洋生物学研究会（伊藤幹事）

海洋生物学シンポジウムの内容について報告された。

春のシンポジウム、サイエンスカフェなどの企画をまとめて宣伝した方がよいことが指摘され、研究集会担当幹事と海洋生物学研究会担当幹事で相談して進めることになった。

これまで春季大会の収入がなくなることに加え、JpGU 連合大会時の会議室賃貸料の増額を考慮すると、今までより年 60 万円ほど収支が悪化することが予想されるため、検討が必要であるという意見が出された。

(13) その他：日本学術会議について（原田幹事）

重点大型研究計画としてヒアリング対象になった 65 件について報告があった。

また、文部科学省のロードマップ 2017 について説明があった。

第 24 期の会員、連携会員の推薦の時期にあることが報告された。

(14) その他：地形の名称について（小畑幹事）

国際会議で、海山の名称に日本海洋学会員の名称がついたことが報告された。

次回幹事会：3 月に開催予定（新旧合同幹事会）